

## 今週（7月19日から7月22日）の短期金融市場動向

### ●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、新しい積み期間に入ったものの、引き続き都銀・系統・地銀業態などから堅調な資金調達ニーズが見られた事から、レート水準は小幅な低下に留まった。無担保コールO/N物は、19日は積み期間が切り替わった事で、先週に比べレート水準がやや低下し▲0.02%～▲0.015%での出会いが中心となった。その後は、各業態から堅調なビッドが見られた事で、日を追う毎に徐々にレート水準が切り上がる展開となった。出会いレートの中心は、概ね▲0.015～▲0.01%で推移した。22日は、週末要因により一段と上昇する展開となり、▲0.01～▲0.005%の出会いが中心となった。無担保コールO/N物加重平均レートは、19日▲0.019%、20日▲0.014%、21日▲0.012%と上昇して推移した。ターム物は、ショートターム物を中心に▲0.03～▲0.01%近辺の水準で引き合いが見られた。日銀当座預金残高は、週を通して545兆円近辺での推移となった。

7月20～21日に開催された日銀金融政策決定会合では、現状維持が決定された。

### ●レボ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.180～▲0.080%程度の水準で推移した。SC個別銘柄では、5年140～153、10年352～367、20年170～181、30年65～75、40年10～15などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

### ●短国市場

今週の短国市場は、19日に実施された1Y物(1095回債)の入札は強めの結果となり、結果発表後のセカンダリーマーケットでは堅調に推移した。20日に実施された6M物(1096回債)の入札も強めの結果となり、結果発表後のセカンダリーマーケットでは堅調に推移した。22日に実施された3M物(1097回債)入札は無難な結果となり、結果発表後のセカンダリーマーケットではしっかりと推移した。短国買入オペは実施されなかったものの、週初の入札結果を受け、全ゾーンで堅調に推移した。

### ●CP市場

今週のCP市場は、鉄鋼・電機・運輸等の業態から大型の調達を実施された。ノンバンク以外の業態で年末越えが一部実施されたものの、期内物の発行が中心となる一週間となった。週間の入札では、大型の案件が多かった事から大幅な発行超となり、発行総残高は過去最高を更新した。発行レートは、0%から若干のプラスで推移しているなか、高格付けの発行体では、0%での決着が散見される事から購入意欲の強さを感じられる。

### ●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
7/18 (月)						
7/19 (火)	26,961.68	0.234	138.22	△ 0.019	△ 0.098	5,451,200
7/20 (水)	27,680.26	0.240	138.15	△ 0.014	△ 0.138	5,463,400
7/21 (木)	27,803.00	0.235	138.45	△ 0.012	△ 0.186	5,470,700
7/22 (金)	27,914.66	0.215	137.32	△ 0.009	△ 0.155	5,480,700

## 来週（7月25日から7月29日）の短期金融市場動向

### ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
7/25 (月)					
7/26 (火)	月例経済報告(内閣府) 金融政策決定会合議事要旨(6月16・17日分 8:50) 6月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)	40Y 7,000億円 7/27発行			米FOMC(1日目) 6月の米新築一戸建て販売件数 5月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 7月の米CB消費者信頼感指数
7/27 (水)	5月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)				米FOMC(2日目) 6月の米耐久財新規受注
7/28 (木)		2Y 28,000億円 8/1発行	交付税借入 12,000億円 8/10借入		4-6月期の米GDP速報値
7/29 (金)	決定会合における主な意見(7月20・21日分 8:50) 6月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 7月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 6月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 6月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50) 6月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 6月の住宅着工統計(国土交通省 14:00) 7月の消費動向調査(内閣府 14:00)	TB3M 56,000億円 8/1発行			6月の米個人所得・消費支出 7月のシカゴPM景況感指数 7月のユーロ圏消費者物価指数速報値 4-6月期のユーロ圏GDP1次速報

### ●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
7/25 (月)	400	24,200	24,600	CP買入 国債補完	▲ 100 8,900		8,800	33,400	TB3M発行▲56000償還58500 TB6M発行▲24000償還32000 流動性供給▲5000 各種財政資金支払等
7/26 (火)	▲ 1,000	5,000	4,000				0	4,000	
7/27 (水)	▲ 500	▲ 12,000	▲ 12,500				0	▲ 12,500	40Y発行▲7000 交付税借入▲13000期日11000
7/28 (木)	▲ 1,000	6,000	5,000				0	5,000	
7/29 (金)	▲ 1,100	3,600	2,500	CP買入 新型コロナオペ	▲ 123,500	4,000	▲ 119,500	▲ 117,000	交付税借入▲13000期日11000
週間合計	▲ 3,200	26,800	23,600	—	▲ 114,700	4,000	▲ 110,700	▲ 87,100	

7/25は日銀予想、7/26以降は当社予想

### ●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、週初は週末要因の剥落により、やや低下する可能性があるが、各業態の資金調達意欲は強いことから、その後は再び上昇に転じる展開が見込まれる。レポ市場は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、今積み期内GC O/N物のレートは▲0.150～▲0.08%程度の水準で推移することが見込まれる。短期市場は、29日に3M物の入札実施が予定されている。また、26日に実施が予想される短期国債買入オペのオファー額は、1,000億円程度が見込まれる。CP市場は、CP等買入オペが26日に予定されている。按分落札レートが3回続けて▲0.001%となっており、水準に変化があるのか、また、持ち込まれる銘柄により平均落札レートが上昇するのかに注目が集まる。

主要なイベントは、国内では26日に金融政策決定会合議事要旨(6月16～17日分)、29日に完全失業率、有効求人倍率、鉱工業生産速報値、海外では26～27日にFOMC、28日に4-6月期米GDP速報値、29日に7月のユーロ圏消費者物価指数速報値、4-6月期ユーロ圏GDP1次速報値、6月の米個人所得・消費支出などの発表が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入